

# 中学校国語科における論理的な文章を書く力を身に付けさせる指導の工夫 —「型」を習得し「目的」「読み手意識」をもつことを促す段階的な指導を取り入れて—

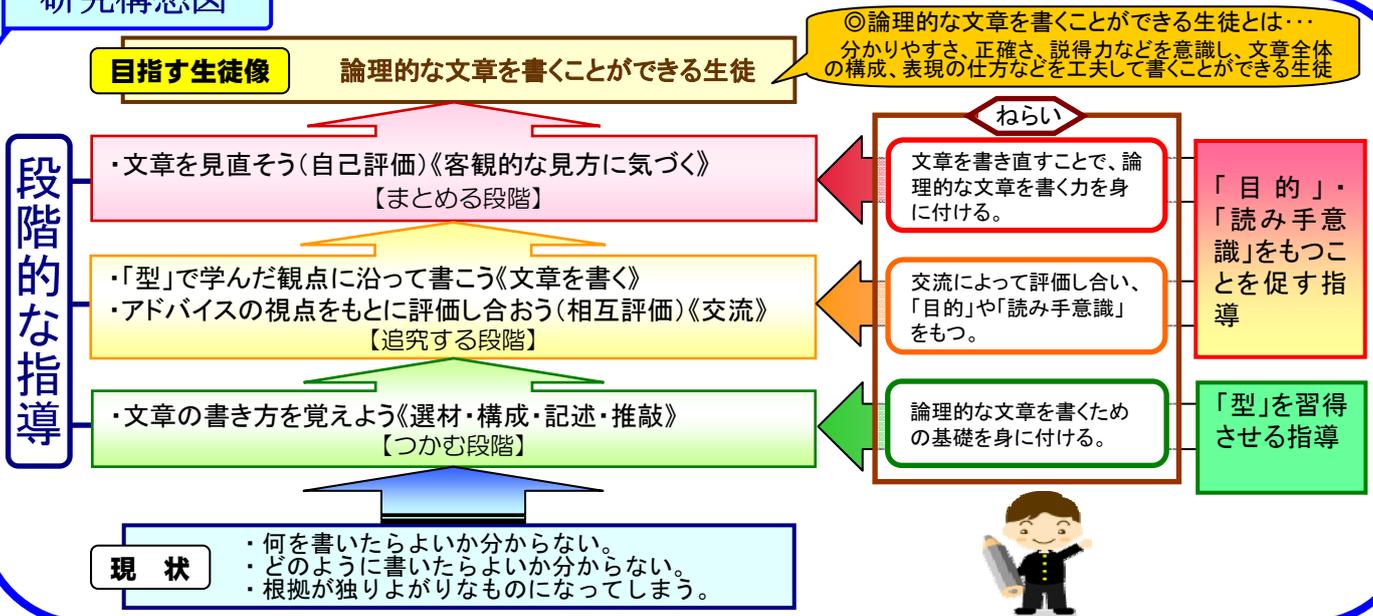
国語班 菅 志保(中学校教諭)

## 主題設定の理由



- 書くことに苦手意識をもっている生徒が多数存在している。また、得意な生徒でも「誰に」「何のために」書くのか、という意識が薄い。
- 平成24年度から実施される中学校学習指導要領では「論理的に思考し表現する能力」が求められる。
- 中教審答申でも「社会的な事柄を含む広い範囲から課題を見つけ、根拠を明確にしながらか自分の考えを簡潔にまとめて記述したり、多様な文章や資料を形にまとめ、分かりやすく発表したりすることができる能力などの育成を図る」ことを求めている。

## 研究構想図



## 実践と結果

〈活動〉  
生徒のモデル文をもとに構成の仕方・根拠の書き方を学ぶ。

### つかむ段階

- \* 接続語や順序を示す語をうまく使うことで分かりやすい文章になった。
- \* 具体例や根拠を詳しく書かないと、読む人に伝わりにくいことが分かった。

〈活動〉  
読み手にとって分かりやすい内容であるか、アドバイスの視点を示したカードを用いてアドバイスし合う。

### 追究段階

- \* 自分では問題ないと思った文章でも、読み合うと見落とししていた部分があることが分かった。
- \* 読む人の立場になって読むと文章の見方が変わった。



〈活動〉  
アドバイスをもとに文章を修正して書き直す。

### まとめ段階

- \* はじめと終わりがつながりをもって書けるようになった。
- \* 根拠や例をより具体的に書くことができた。

生徒アンケートから

ほとんどの生徒が、以下の観点から、自らの文章が良くなったと評価しました!

- 三段構成で、段落同士のつながりを意識できた **97%**
- 具体例や根拠を詳しく書くことができた **99%**
- 伝える相手や目的を意識して書けた **100%**

## 成果と課題

### 成果

- 「型」を習得し、それを生かして文章を書くことにより、「目的」や「読み手意識」をもった論理的な文章を書く力が身に付いた。
- 交流活動を通して「目的」や「読み手意識」をもたせることができ、それが論理的な文章を書くことにつながった。

### 課題

- ☆誤字脱字等の表面的な内容のアドバイスにとどまってしまう生徒がいた。メタ認知能力の育成にも配慮し、自己評価や相互評価などを工夫していく必要がある。
- ☆単発的な学習で終わることなく、三年間を見通した上での計画的な「書く活動」を展開する必要がある。